

平成30年(2018年)2月

第74号



もいまち

# 議会だより

写真/海野光弘木版画展に訪れた  
出世法師直虎ちゃんと森幼稚園児  
(たんぽぽ組)



《主な内容》

12月定例会審議結果

委員長報告

一般質問

子育て支援に特化を 他

2~3ページ

4~5

6~8

# 役場組織を改編

## 移住定住の推進と、防災力の強化に期待

## 宮園小学校プール改修へ 放課後等デイサービスの利用増

森町議会は、12月定例会を4日から20日までの会期17日間で開催しました。

補正予算、条例、人事など18議案を審議しました。

一般質問は「子育て支援に特化を」など6人が質問しました。

(6～8ページに掲載)

### 補正予算

一般会計補正予算(第6号)

追加 6989万5千円  
総額 74億5921万5千円

### 宮園小学校プール改修工事設計委託

老朽化が激しい宮園小学校プールを大規模改修するため、地盤等の調査から設計までを行う (581万1千円)

### 町単独河川改修事業

準用河川第2小藪川起点部の護岸を改修する (970万円)



第2小藪川の損傷した護岸

### 道路台帳補正委託

道路が天宮土地区画整理組合から町に移管されたため、道路台帳を大幅に更新する (310万円)

### 心身障害児者福祉費

障がいを持つ子どもの放課後等デイサービスの利用増加などにより、\*扶助費等を追加する (1495万6千円)

\*扶助費：社会保障制度の一環として、児童・高齢者・障害者・生活困窮者などに対する支援に要する経費

### 茶園集積推進事業費補助

集積茶園で、一定以上の茶樹の改良に取り組む茶工場等に対し補助を行う (149万2千円)

\*事業概要：農地中間管理事業を活用して、茶園を改良する場合、10アールあたり5万円を補助する

### 社会保障・税番号制度システム整備委託

平成30年度以降、\*マイナンバーカードに、旧姓の併記ができるようにするため、システム整備を行う (318万6千円)

\*マイナンバーカード：個人番号や顔写真が印刷された公的な身分証明書

### 【反対討論】

現在、住環境や子育て環境が十分とは言えない中、議員期末手当の引上げは認められない。(加藤議員)

### 【賛成討論】

木造住宅耐震補強や、農地集積に係る事業など補助金等が活用されている。第2小藪川河川改修など時を得たものである。(岡野議員)

### 条例

#### 森町組織条例

【一部改正】  
第9次森町総合計画に沿ったまちづくりの推進、また、住民の多様なニーズに柔軟かつ迅速に対応するため、役場の組織編成を変更する

### 役場組織編成の主な変更点(4月から)

- 「定住推進課」を新設  
移住定住の推進、町営住宅の管理、耐震の補助、空き家相談などを担当
- 防災課を設置  
総務課防災係を、課として独立
- 課の担当業務の変更  
企業誘致を、企画財政課から産業課に など
- 係の統合や名称変更

**森町議会の議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例 (二部改正)**

議員の期末手当を、人事院勧告に基づき0.05か月分引き上げる

**【反対討論】**

今多くの労働者が、じり貧状態にあるかと思う。我々が身を削る改革精神を持たなければ、納税者の信頼を得られない。  
(鈴木議員)

**【賛成討論】**

議員報酬だけでは生活できないことに問題を感じる。今回の若干の期末手当の引上げは、町民にも理解を得られると思う。  
(小澤議員)

**【反対討論】**

議員は公約を実現するために活動すべきだ。引上げは少額だが、現状維持で頑張ることにより町民の理解を得る必要がある。  
(西田議員)

**【賛成討論】**

県内35市町の内、29番目の額であり、高い方ではない。財政に悪影響を与えるものでなく、その分頑張ろうと勢いづけるものだと考える。  
(亀澤議員)

**人 事**

**人権擁護委員**

3月末の任期満了に伴い、白畑安信氏を引き続き推薦しました。

**一 般 議 案**

**森町道路線の認定**

天宮土地区画整理組合から移管された道路を町道として認定した

**補正予算 (追加議案)**

**一般会計補正予算 (第7号)**

追加 264万5千円  
総額 74億6186万円

**※ 山村振興地域茶業振興整備事業補助**

三倉摘採共同グループが、乗用型茶摘採機を導入するため補助金を交付する (264万5千円)

※事業概要：山村振興地域で、茶生産関連施設の整備等を行う団体に対し、県が事業費の3分の1、町が10分の1を補助する



乗用型茶摘採機

**12月定例会の審議結果**

	議案名	結果	備考		議案名	結果	備考
専決	専決処分の報告承認	承認	全員賛成	条例	森町都市公園条例の一部を改正する条例	原案可決	全員賛成
人事	人権擁護委員候補者の推薦	推薦	全員賛成		一般議案	静岡県市町総合事務組合規約の変更	原案可決
条例	森町組織条例の一部を改正する条例	原案可決	全員賛成	東遠学園組合を組織する地方公共団体の減少及び東遠学園組合規約の変更		原案可決	全員賛成
	森町議会の議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例	原案可決	反対 西田議員 鈴木議員 伊藤議員 加藤議員	森町道路線の廃止		原案可決	全員賛成
	森町特別職の職員で常勤のもの給料等に関する条例の一部を改正する条例	原案可決	反対 西田議員 鈴木議員 加藤議員	森町道路線の認定		原案可決	全員賛成
	森町教育委員会教育長の給与及び勤務時間等に関する条例の一部を改正する条例	原案可決	反対 西田議員 鈴木議員 加藤議員	補正予算	平成29年度 森町一般会計補正予算 (第6号)	原案可決	反対 西田議員 鈴木議員 加藤議員
	一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例	原案可決	全員賛成		平成29年度 森町介護保険特別会計補正予算 (第2号)	原案可決	全員賛成
	森町営住宅管理条例の一部を改正する条例	原案可決	全員賛成		平成29年度 森町公共下水道事業特別会計補正予算 (第1号)	原案可決	全員賛成
			平成29年度 森町水道事業会計補正予算 (第2号)		原案可決	全員賛成	
				平成29年度 森町一般会計補正予算 (第7号)	原案可決	全員賛成	

# 第一常任委員会

## 南箕輪村の人口減少対策から学ぶ

長野県南箕輪村

南箕輪村は、現在の人口約1万5千人、人口減少が言われる中、子育て支援策をいち早く取り入れ充実を図ることと、現在も人口増加をしており、特に子育て世代の若者が転入することと、20年後まで人口増加が予想をされています。人口減少の続く森町にとって、参考とすべく政策について研修を行いました。

唐木一直村長によれば「平成17年、初当選の頃、近隣市町には子育て支援



全ての子どもと親の居場所「こども園」

第一・第二常任委員会は、11月14日、15日に、各委員会の所管事項の先進地を視察しました。主な内容を報告します。



歓迎の挨拶をする唐木村長

策は全くありませんでした。将来の人口減少対策として、子育て支援策の実施と充実により『子育てするなら南箕輪村』と「〇〇」まで広がり現在に至った」とのことでした。

6つの公立保育園では、10年間で6回の保育料の引下げや、子育て支援センター設立を始め、平成25年より高校3年までの医療費の無料化実施や、障がい児童の居場所「たけのこ園」、全ての子どもと親の居場所「こども園」の設立など、子育て環境政策の基本は、生まれてから18歳までの切れ目のない支援策実施とのことでした。

この視察では、自らの地域の特徴や環境を生かした独自の政策を発信すること、また、将来を見据えた政策とスピード感が大切であることを学ぶこととなりました。

## 千曲市の

## 企業誘致から学ぶ

長野県千曲市

千曲市は、以前より企業誘致を積極的に進めてきており、現在、上越自動車道のスマートインター設置予定に備え、長野県内最大規模のショッピングセンターの誘致に取り組んでいます。森町より面的にはやや小さいが、人口は約6万人と森町の約3倍です。市の中央を「千曲川」が流れ、日本一



約35haの開発予定地



高台から眺める開発予定地

の「あんずの里」として有名です。平成6年頃より、企業誘致計画が発足しては消えた経緯があります。

開発事業を改めて進める背景には、農振用地の地権者240名の「協議会」から、将来のために開発を急げと「民力」が強く働いていることと、近隣市より人の流れを変えることで、人口減少に歯止めをかけ、将来の「千曲市」を形成したいという、行政と民意の強い目的意識によるものでした。

過去を分析し、国や県、他市とも情報交換するなど、計画実現に向け、官民一体となって取り組む姿勢や積極さは、森町においても参考とすべき視察でした。

# 第二常任委員会

## 景観づくり

### 「町並修景事業」

長野県小布施町

小布施町は、長野県の東北部に位置し、人口約1万1千人、行政区の面積は19.12平方キロメートルですが、「葛飾北斎」と600年の歴史を持つ特産の「栗菓子」、また「花の町」として知られ、年間120万人の観光客が訪れています。まちづくりの取り組みとその魅力を探ってみました。

小布施町は、江戸後期、北信濃の経済・文化の中心として栄え、浮世絵師「葛飾北斎」など、多くの文化人を招き、今に続く文化の香り高い雰囲気がつづられました。北斎は、晩年80歳を過ぎてから小布施を訪れ、肉筆画300点余りを残しています。

小布施のまちづくりは、昭和40年代、若者の流出等で人口が減少する中、人口対策として住宅造成を行い、その後、北斎館を建設したことから始まったと言われています。北斎館に観光客が来るようになり、昭和57年町並修景事業により「歴史文化ゾーン」を設定しました。歴史的な景観をとどめている町の中心部地域で、より快適で個性豊かなまちづくりを進めるため、住民と行

政が役割を分担しながら町並景観づくりが進められました。

特に景観に配慮し、違和感がなく、使いやすい空間を作り出そうと、関係者により100回程、打ち合わせが行われたということです。

平成18年に国の景観法に基づく景観行政団体に指定され、うるおいのある美しいまちづくり条例を制定し、まちづくりの指針とすべく景観計画が策定されました。

小布施町は、庭の付いた家や樹木が多く、「外はみんなの物、内は自分たちの物」と言う考えが定着し、大人も子どもも日常の通路として、店の中や家の庭を自由に行き来しています。

## 産業振興

産業の中心は農業で、果樹を中心とした「農業立町」、文化遺産を活かし



歴史・文化ゾーンの北斎館



うるおいのある美しいまちづくり

た「文化立町」を政策に掲げ、まちづくりの5つのポイントとして、①人口政策による住宅の造成、②北斎館の建設、③地場産業(栗菓子店の躍進)、④町並修景事業、⑤花のまちづくりを進めてきました。

全農業産出額は約30億円で、その内ブドウとリンゴが8割を占めています。栗で有名な小布施町ですが、実際の産出額は1億円程度ということでした。

平成11年に6次産業センターを作り、農業者自らが生産、加工、販売しています。販売戦略については、企業に委託、コンセプトを検討し、農産物にブランド化等の付加価値をつけ、全国PRをして、より収益性を高めています。

新たな農産物の研究と栽培計画は二つあり、ジャムやソースとして使うブ

ラムリーというリンゴと、もう一つは、これも加工用でチェリーキスというサクランボで、現在、栽培の推進拡大を図っているということでした。

## 視察を終えて

小布施町は、このように早くから人口減少など地域の課題と資源に着目し、町並景観づくりに取り組んできたことが、現在の賑わいや産業振興に結びついていることがわかりました。

森町でも資源にもう一度目を向け、分析し、具体的な施策を提言してゆく必要があると感じました。

今回の小布施町の視察研修は、第9次森町総合計画や、遠州の小京都まちづくり基本計画の具現化に向けて、大変有意義な所管事務調査となりました。



自由に行き来できる民家の庭



西田 彰

# 子育て支援に特化を (人口減少対策)

**問** 森町議会第一・第二常任委員会の所管事務調査で、長野県南箕輪村を訪れ、人口減少対策における子育て支援の取り組みを調査した。そこで伺う。

①町長も調査に同行した。視察の感想は。

②平成28年4月から平成29年11月までの森町の人口動態は。

③未就学児までの医療費無料化が1年経過した。その検証、効果はどうか。

④子育て支援は、将来的には大きな財産(人口増など)となる。特化した支援が必要だ。

**町長** 南箕輪村の人口増加の要因は様々ある。平成17年現村長就任時「これからは少子化になる」という先見性のもと、全国の市町村に先駆けて、子育て支援に取り組んだ結果が人口増に結びついたと思う。保育料の引き下げ、医療費無料化の対象年齢の引き上げ、子育て支援センターや療育施設の整備等があげられる。率直に申し上げれば、先を見越した先見の明をお持ちで敬意を表したい。先進市町は先見性があり、スピーディ

に政策を実施している点は、森町も見習うべきだと学んだ。

森町の人口動態、自然・社会増減では423人の減となっている。

未就学児に対する通院医療費無料化が1年間経過したが、予算上の試算額(600万円増)と同程度で、大きな増加とはなっていない。現在、町では「こども医療費助成」や「森っ子出産祝い金」「幼稚園の預かり保育」「放課後児童クラブ」等保護者の負担軽減施策を実施している。

**問** 30年度予算編成で、医療費無料化対象年齢引き上げ、保育料引き下げ等を実施し、さらに、地域振興基金を「子育て支援基金」として活用を考えるべきだがどうか。

**町長** 県のことも医療費助成対象者の拡大検討、国の幼児教育無償化への検討がされている。国・県の動向を注視し、支援の充実を図りたい。基金については、目的があって積んでいるため、他に使うことはできないのではないかと思っている。

## 町政を問う ～一般質問～



伊藤 和子

# 「地域共生社会」 の実現に向けて

**問** 近年、障がいをお持ちの方々の就業意欲が高まり、森町でも今まで以上に労働・福祉・教育等が連携して、様々な分野での一体的なサポート体制の充実が必要と考える。

平成30年の4月以降、障がいの者の法定雇用率が順次引き上げられる。改正に向けての具体策、課題について伺う。

**町長** 民間企業の雇用率アップのため、障がい者初回雇用奨励金の活用や、障がい者雇用企業への見学会や、職場実習の創出などハローワークと連携し、雇用促進を進めていく。

課題としては、森町には50人以上の事業所が少ないため、町外勤務が多く、通勤手段の確保等が難しく、就労に結びつきにくい状況にある。

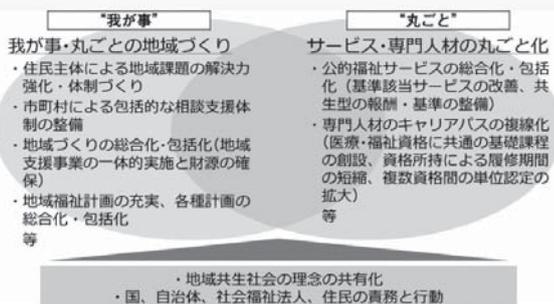
今後は、企業への職域開発に向けた支援や助成などの活用を推進し、ハローワークや近隣市町と連携して雇用の場の確保に努めていく。

**問** 年齢や、障がいの種別を超えた「コミュニティづくり」が必要となる。

このような「地域共生社会」の実現に向け議論し前向きに検討してみたい。

**町長** 今後は、紹介していただいた先進事例、森町の特性や地域性に合うものを取り入れ、「地域共生社会」の実現に向けて検討していく必要があると考える。

### 「地域共生社会」実現の全体像イメージ





岡戸 章夫

### 小規模特認校制度

### について伺う

**問** 森町の小中学校において、小規模特認校制度を検討する考えがあるか。

**教育長** 児童生徒が通学する学校は、教育委員会規則に基づいて指定している。「小規模特認校」制度は、小規模の特性を生かした教育を希望する保護者の児童生徒に、特例措置として、特認校への通学を認める制度であるが、今の時点で制度化は考えていない。

ただし、現在の規則でも、特別な事情がある場合に限り、一定期日までに申請すれば、指定校の変更を承認できる場合がある。

**問** 「森町八公施設等総合管理計画」において、更新費用総額約442億円の内、学校施設の更新費用が約159億円と突出している。その内訳と妥当性を伺う。  
また基本方針にて乗り越えられるのか。

**町長** 総務省の指針により、平成28

「森町 公共施設等総合管理計画」

平成28年3月 策定



QRコードを読み取るとリンクします

年3月に策定し、算出は総務省の更新試算ソフトを用いている。三倉小11.6億円・天方小10.2億円・森小28.4億円・宮園小21億円・飯田小20.5億円・泉陽中13.7億円・森中28.6億円・旭が丘中25.1億円となる。試算単価は総務省の更新費用試算ソフトに基づいており、適切と考える。

公共施設の「機能と規模の最適化」「長寿命化と維持管理コストの平準化」「交流と広域的な連携の推進」及び「民間活用の拡大」を基本方針とし、個別の施設計画を策定し、課題解決に取り組んでいきたい。

## 町政を問う

### ～一般質問～



鈴木 托治

### 森町消防団第一分団に 水槽付ポンプ車の導入を

**問** 初期消火は最良の消火活動であることから、第一分団(三倉・天方)への水槽付ポンプ車を導入する計画はあるか伺う。

**町長** 初期消火は、消防署と消防団が協力して行っている。消防署には、5トンの水槽付ポンプ車が配備されていること、また消防団は、消火活動の後方支援が重要な役割となっており、消防水利を確保して、安定的に水を供給する必要があることから、消防団に水槽付ポンプ車の配備は考えていない。

**問** 水利の悪い地域に、防火水槽の設置が必要であると考ええる。防火水槽は、多額な工事費用がかかるため、集落に農業用タンク(3000リットル)を設置したらどうか。

**防災監** 耐震性の防火水槽については、国・県の補助の対象となっており、地元町内会から場所の提供があれば、計画的に設置を考える。

**町長** 農業用タンクを用いて防火水槽とするには、消防団との協議も必要になるかと思うので、それが使い勝手のよいものかどうか、今後協議していきたい。

### その他の質問

城下団地跡地に、太陽光発電の導入と、その売電による小中学校の空調設備の導入の考えは。



消防署に配備されている水槽付ポンプ車



加藤 久幸

## 電気自動車に関する インフラ整備は

**問** 昨今、エネルギーセキュリティ、地球環境問題への対策として、エネルギー効率、CO2排出量の面で優れた電気自動車(EV)や、プラグインハイブリッド自動車(PHV)を中心とした、次世代自動車の普及に向けた取り組みが活発に進められている。

森町における充電インフラ整備についての現状と、今後の取り組みについて伺う。

**町長** 急速充電器の設置は環境、観光などで有効な面がある一方、運営



電気自動車の充電施設

経費を必要とするなどの課題がある。ただし、民間主体の設置の促進を行うとともに、EV・PHVの普及状況や、森町を訪れる人の要望等を把握した上で研究していきたい。

### 小中学校の教員不足の現状は

**問** 全国的に教員の不足が問題になっている。教員の採用も抑制気味であり、教員を志す学生も減少傾向にあると聞く。

森町の小中学校において、教職員の不足はないか、現状について伺う。

**教育長** 森町において決められた人数は配置されている。今後は定数の配置はもちろんのこと、加配についても引き続き、県にお願いをしていく。

教員を志す若者が減少傾向であることは確かである。教職は、人づくりに欠かせない、やりがいのある職業であることを実感できる現場になるよう、教育の魅力を様々な方法で発信していきたい。

## 町政を問う ～一般質問～



中根 幸男

## 遠州の小京都 「拠点づくり」は

**問** 平成30年度当初予算の規模と主要な継続事業の計画について伺う。

**町長** 平成30年度当初予算は、第9次総合計画に掲げた基本理念や、町の将来像「住む人も訪れる人も心とらぐ森町」の実現を目指し、事業の必要性・妥当性を吟味し、行財政改革の推進による効率的かつ効果的な予算を、国の動向を注視しながら編成を進めている。

予算規模は、町税並びに地方交付税の減収等が見込まれる一方、袋井市森町広域行政組合の分担金が、消防庁舎の建築工事着手により増加すること等から、本年度当初予算(約70億円)をやや上回る規模になると見込んでいる。

主要な継続事業は、未就学児自己負担の無料化の継続を含め、こども医療費助成事業、ふるさと納税推進事業、また、国の社会資本整備総合交付金を活用した、太田川圃場南4号線改築工事、そして遠州の小京都推進事業等について引き続き取り組んでいきたい。

**問** 遠州の小京都まちづくりに向けた「拠点づくり」は。

**町長** 「拠点づくり」については、お茶や和菓子、森山焼といった森町の特産品や観光施設をPRする拠点の重要性、さらには「遠州の小京都」を感じられる空間の創出の必要性を感じている。このため、空き家となっている町屋や蔵を活用した観光案内、観光商品・物産の販売拠点の整備について検討していきたい。

また、森町の歴史や伝統文化を広く紹介し、伝え残すために「伝承館」のような拠点を設けることも一つの方策と考えている。



森地区の町並

## 町有林を視察しました

11月24日早朝より、議員12名、事務局2名、担当課職員2名にて、町有林5箇所の視察を行いました。

杉沢町有林の山中まで登り、間伐状況や杉・ひのきの生育状態などの説明を受け、後に、その他4箇所の町有林を、県道から全貌し、植栽時期の違いなどの説明を受けました。

**面積** 約123ha (森林簿面積)

内訳：所有林7箇所 約38ha  
 ※分収林2箇所 約85ha

### 特徴

町有林の経営は、早くから基金財産の達成を目指して拡大造林が続けられ、人工造林率が高く、植栽可能地では、植栽が完了しています。

育林管理は、下刈り期を過ぎ、間伐や作業道整備などを行っています。

樹齡が比較的若いため、伐採可能な山林は多くありません。

### 情勢

木材価格の下落と育林経費の上昇などに伴い、町有林の当初の目的である基金造成が困難になり、国有林野事業と同様に、※水源涵養・自然環境保持等の公益的機能を重視した管理運営へと転換しつつあります。

### 会計

昭和57年度から森町有林特別会計を廃止し、一般会計で会計処理しています。



杉沢町有林視察の様子

### 視察箇所

- ・中川原町有林(所有林) 2.08ha  
 森町問詰字中川原
- ・大河内町有林(分収林) 46.07ha  
 森町三倉字ヒカゲ山・ゴンロク山
- ・片吹町有林(所有林) 9.22ha  
 森町亀久保字杉沢
- ・霊是町有林(所有林) 15.77ha  
 森町亀久保字霊是
- ・杉沢町有林(分収林) 39.61ha  
 森町亀久保字杉沢

※分収林：所有者と造林者が違う森林。契約によって、伐採による収益を分け合う  
 ※水源涵養：森林が、降水を貯留し、洪水を緩和させ、川の流量を安定させる

## 第4回3町議会議員研修会

### を行いました

1月18日、川根本町山村振興センターにて、森町、吉田町、川根本町3町議会議員全員による、合同研修会を開催しました。

3町それぞれの議会から出されたテーマについて、3分科会に分かれて活発な意見を交わしました。森町からは「地方議員のなり手不足対策について」、吉田町からは「議会における発言力向上について」、川根本町からは「人口減少対策への各町の取り組み状況と課題について」が出されました。



分科会の様子



全体会の様子

### 人口減少対策について

吉田町「妊娠から出産までの診察・通院費用5万円の助成」「自治会に女性役員を起用した場合、その町内会に30万円の助成」

川根本町「高校生までの医療費無料化」「新築住宅補助金、上限200万円」

についての発表があり、他町の状況を聞くことができた有意義な研修となりました。

# みんなのこえ

## 心を育てる空手道



### 森町空手道スポーツ少年団

代表 加藤久幸(森町北戸綿)  
電話 0538-85-6115

現在、空手道も時代の流れと共にスポーツ意識が強くなっており、学校や家庭では経験できない、子どもたちの心身健全育成の場として、素晴らしいスポーツであることを皆様にぜひ知ってほしいと思います。道場の玄関を入ると、まず履物をきちんと整理整頓することから稽古は始まります。稽古場は張り詰めた雰囲気の中で気がみなぎり、精神集中

の場となります。道場では空手稽古だけでなく、運動神経を養うスポーツトレーニングを取り入れたり、社会のルールも学んでいます。空手道を通じて礼儀正しく強い心を養う、人間形成の場として役立てればと思います。子どもから大人まで、生涯スポーツを通して、共にいい汗をかく仲間たちを募集中です。

## 議会を聴きに来ませんか

12月議会では、のべ45人の方が、議会へ足を運んでくださいました。予約は必要なく、手続も簡単です。是非、お越しください。

- 議事堂は役場3階
- 定員数28名
- お問い合わせ先...議会事務局  
電話 0538-85-6329

### <3月定例会の予定>

- 3月2日(金) 本会議 初日
- 3月6日(火) 本会議 2日目
- 3月8日(木) 常任委員会
- 3月9日(金) 常任委員会
- 3月12日(月) 常任委員会
- 3月22日(木) 本会議 最終日

※会議の開始時間は午前9時30分です。  
※日程が変更される場合もありますのでご了承ください。

## あの一般質問

どうなっただいやあ～

### 【平成29年6月定例会】

Q 空き家の担当は、建設課、企画財政課、住民生活課に分かれている。利用者のために、窓口を一本化できないか。



A 4月から役場組織を改編します。空き家は新設される定住推進課が窓口となります。

詳細は2ページ下段をご覧ください

## ひとこと

寒い朝には氷が張る季節になり、あっといこう間に、平成30年、4月で新議員となり早一年が経とうとしています。

何もかもが新しい発見であり、「百聞は一見に如かず」と言うように、ひとから何度も繰り返し聞くより、自分自身の目で見ることの重要性がよく分かった平成29年でした。

さらに、問題意識を高度に保ち、引き続き活発な議員活動に取り組んでいきたいと思えます。今後も皆様により読みたい議会だよりになるよう努めて参ります。

H・かとう

## 議会だより編集委員会

- |      |       |
|------|-------|
| 議長   | 山本俊康  |
| 委員長  | 亀澤進   |
| 副委員長 | 岡野豊   |
| 委員   | 中根信一郎 |
| 委員   | 加藤久幸  |
| 委員   | 岡戸章夫  |